



平成22年7月9日

各位

上場会社名 明和地所株式会社
 代表者 代表取締役社長 原田 英明
 (コード番号 8869)
 問合せ先責任者 常務取締役 宮崎 猛
 (TEL 03-5489-0111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,400	△900	△1,800	△1,100	△44.19
今回発表予想(B)	13,100	100	△800	△100	△4.02
増減額(B-A)	4,700	1,000	1,000	1,000	
増減率(%)	56.0	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	18,659	1,482	1,203	580	23.31

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	35,600	2,700	900	500	20.09
今回発表予想(B)	38,700	3,100	1,600	1,000	40.17
増減額(B-A)	3,100	400	700	500	
増減率(%)	8.7	14.8	77.8	100.0	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	35,509	1,907	967	519	20.88

平成23年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,000	△1,000	△1,400	△900	△36.15
今回発表予想(B)	10,700	0	△400	100	4.02
増減額(B-A)	4,700	1,000	1,000	1,000	
増減率(%)	78.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	16,075	1,254	1,211	663	26.66

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	30,800	2,300	900	500	20.09
今回発表予想(B)	33,900	2,700	1,600	1,000	40.17
増減額(B-A)	3,100	400	700	500	
増減率(%)	10.1	17.4	77.8	100.0	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	30,641	1,369	644	423	17.03

修正の理由

首都圏マンション市場は住宅取得に対する政策的な追い風を背景に在庫調整が進展しつつあり、販売状況も足元の初月契約率は80%前後の水準が持続しております。REITを含めた不動産向けファイナンス環境につきましても、正常化に向けた動きが見られるようになり、事業法人による用地取得など不動産の実需が回復しつつあります。

こうした中、当社におきましては今期仕入れ計画であります売価ベース400億円の用地取得を前倒しで完了すべく仕入れ

活動に注力いたしております一方、2009年10月以降に取得した案件の供給・販売を順次始めており、クリオ浅草ラモード、クリオ府中中河原、クリオ鶴見、クリオ南多摩、クリオ黄金町など5物件が完売もしくは残り1桁台となる順調な販売状況が続いております。

本業に集中いたします一方、今期のもう一つの重要課題であります財務体質の改善強化に関し、たな卸し資産中のオフィス関連用地ならびに固定資産につき売却を含めたさまざまなソリューションを進めております。その重要な一歩として、たな卸し資産であります新橋案件を売却決済いたしました。加えて固定資産中、賃貸用不動産として保有しておりましたマンション134戸を本日付「固定資産の売却ならびに特別損失の発生について」で別途お知らせしております通り、売却いたしました。

2件合計の売却総額は9,600百万円であり、自己資本比率向上とキャッシュフローの改善に資する効果が期待されます。また今期業績に与える影響につきましては、固定資産の売却に伴う特別損失が発生いたします一方、たな卸し資産の売却及び、一部引渡物件も見直した結果、連結業績・個別業績ともに売上高・営業利益・経常利益および当期純利益がそれぞれ前回予想を上回る見通しとなりましたので、それぞれの効果を第2四半期累計期間および通期の業績予想に反映してお知らせいたします。

(注)上記予想は、資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上